

# イタリアに 投資をしよう

最高のチャンスが今、  
イタリアにある

2018

INVESTINITALY.COM



# 01

## なぜイタリアなのか

世界に冠たる経済大国  
勢いのある輸出大国  
世界トップレベルを誇る製造業  
戦略的ゲートウェイ

# 02

## なぜ今なのか

魅力にあふれる投資インセンティブ  
増大する海外からの投資

# 03

## 最高のチャンス

イノベーションを支える能力  
膨大な工業地域  
交通インフラとデジタルインフラ  
公共インフラ

01

The image features the numbers '01' in a large, bold, black sans-serif font. The numbers are positioned in the lower half of the frame. Behind the numbers, a semi-transparent image of a white plastic chair is visible, showing its backrest and seat. The background of the entire image is a plain, light gray color.



# なぜ イタリア なのか

世界に冠たる経済大国

勢いある輸出大国

世界トップレベルを誇る製造業

戦略的ゲートウェイ

# 世界に冠たる 経済大国

イタリアは風光明媚な美しさを誇る、  
美食と才能が集まる土地であるとともに、  
世界経済を牽引する国の一つ。1兆7000億ユーロを超えるGDPと6000万人以上の人口のおかげで、  
イタリアは世界9位の経済大国になっています。

## 常に世界のトップ10にランクイン

- 2<sup>nd</sup> 欧州内における製造業の規模
- 3<sup>rd</sup> ユーロ圏における経済規模
- 5<sup>th</sup> 世界における製造業の規模
- 1<sup>st</sup> UNESCOの世界遺産登録数
- 3<sup>rd</sup> 欧州内における外国人の滞在日数
- 5<sup>th</sup> 世界の観光目的地

## イタリアがトップを誇る「IN」と「OUT」

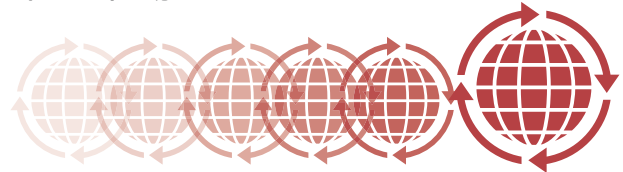
OUT

約 450億 ユーロ  
の輸出(品)を世界へ

IN

約 5800万人  
の観光客がイタリアを  
訪れました。

イタリアで活動することは、世界最大の  
単一市場にアクセスできるということ。



イタリアの企業は、欧州経済領域内の30か国以上の市場と、5億人を超える消費者に無関税でアクセスできます。

イタリアはENI、フィアット・クライスラー、レオナルド S.p.A. (旧フィンメッカーニカ)などの世界有数の多国籍企業の多くを輩出しており、さらにイタリアには、その他世界的多国籍企業、特に最先端分野やハイテク分野の企業を引き付ける魅力があります。



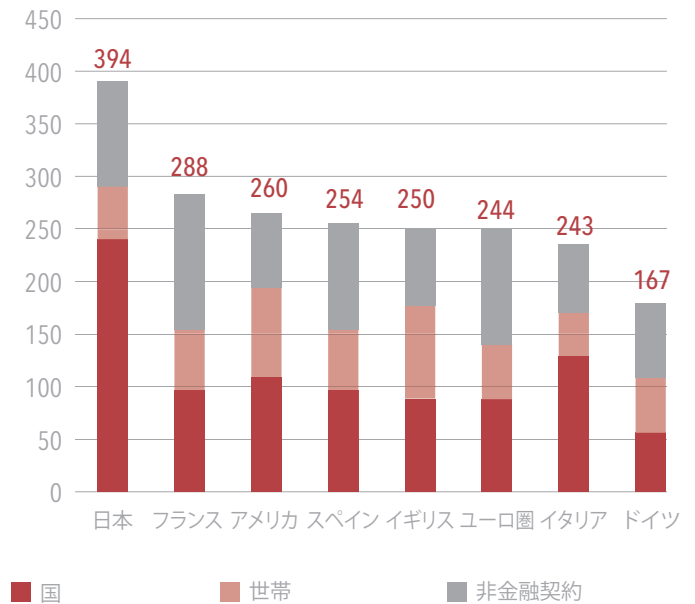
イタリアの工業系外資企業は全労働者の11%を雇用、国内売上高の20%以上を生産し、輸出の26%を占めています。

イタリアの財政はますます健全に。  
際立つ総債務の低さ。

- イタリアの世帯の総貯蓄額は可処分所得の約8倍であり、これはアメリカ、ドイツ、カナダよりも高い数字となっています。
- イタリアの世帯は他のOECD加盟国の世帯よりも借入資本に依存する割合が少なくなっています。イタリアでは借入が可処分所得の41%であるのに対し、イギリスでは86%です。

### 総累積債務の内訳

2017/2018\*の、GDPに対する割合



\* 国のデータは2018年、民間のデータは2017年のものです。



# 勢いある 輸出大国

イタリアは世界に五か国しかない製造貿易黒字(470億ユーロ以上)を誇る国の一つ。

ここ10年間でイタリアの企業は目覚ましいイノベーションと近代化を遂げ、イタリアを欧州における輸出貿易の主役に押し上げる画期的な専門分野を創出してきました。総輸出額は5000億ユーロを超え、2017年の輸出品の総額は4500億ユーロ以上にのぼりました。

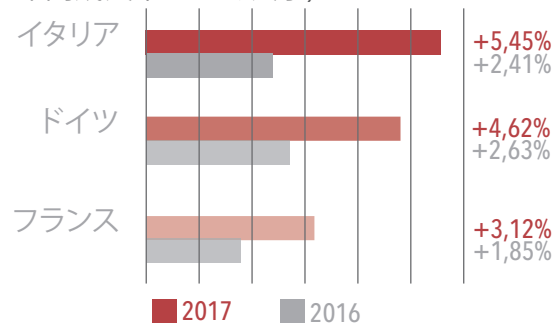
## イタリアの物品の輸出における成長率 (2011-2017、輸出品の価格、10億ユーロ単位)



イタリアの年間輸出成長率は2016年に2.41%増加しました。2017年には5.45%の増加率を叩き出し、ドイツが2.63%、フランスが1.85%であることを考えると圧倒的と言えます。

## 年間輸出成長率

(2016年と2017年の比較、物品とサービスの価格の年間成長率を%で表示)



ソース: The World Bank (世界銀行)

- 機械類の輸出額が2017年に800億ユーロに到達(2015年から150億ユーロのプラス)
- 医薬品の輸出額が2009年から2017年にかけて倍の240億ユーロに
- 車両の輸出額が2017年に230億ユーロに(2015年から40億ユーロのプラス)



常に世界のトップ10にランクイン

- 2<sup>nd</sup>** 世界における履物類の輸出
- 2<sup>nd</sup>** 世界におけるワインの輸出
- 3<sup>rd</sup>** 世界におけるヨットの輸出
- 3<sup>rd</sup>** 世界におけるファッション分野の輸出
- 3<sup>rd</sup>** 世界における電化製品の輸出
- 4<sup>th</sup>** 世界における金属製品の輸出
- 4<sup>th</sup>** 世界における家具の輸出
- 5<sup>th</sup>** 世界における機械類の輸出

イタリアの貿易相手国トップ10(貿易額順)  
(2017)

- 1** ドイツ
- 2** フランス
- 3** アメリカ
- 4** スペイン
- 5** イギリス
- 6** スイス
- 7** 中国
- 8** ベルギー
- 9** ポーランド
- 10** オランダ

ソース: ISTAT(イタリア国立統計研究所)



## イタリアに投資をしよう

最高のチャンスが今、イタリアにある

# 世界トップレベル を誇る製造業

イタリアは欧州の製造業においてドイツに次ぐ第二位、世界では第五位。

新興国から続々と新進気鋭のメーカーが業界に参入してきているにもかかわらず、イタリアは、イタリアが誇る、イタリアブランドの卓越した品質の製品によって、30年以上にわたって世界のトップ10に選ばれてきました。

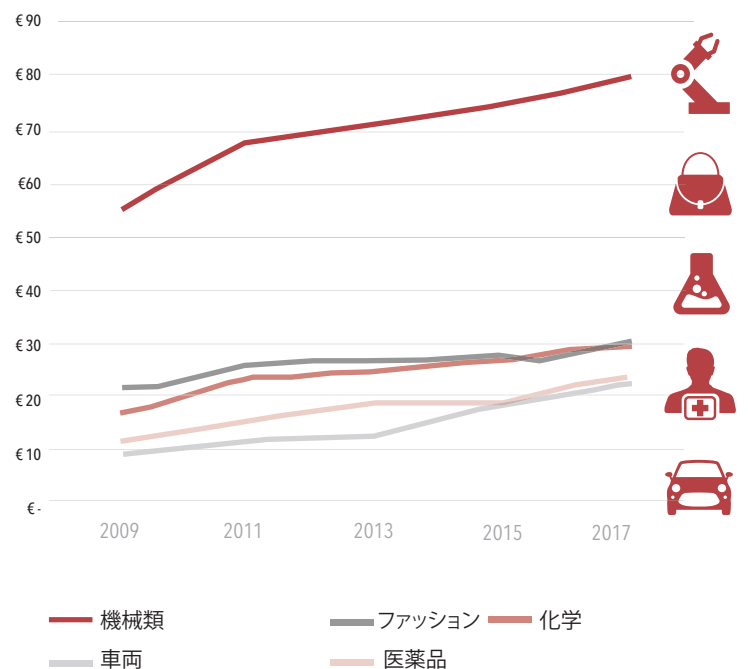
メイド・イン・イタリーは  
幅広い分野で一流

メイド・イン・イタリーとはファッション・美食・そして家具に限った話ではありません。産業部門は大変革を遂げ、また機械類、医薬品、そしてハイテク分野においても同様です。

近年、メイド・イン・イタリーの分野は、繊維製品や家具などの伝統的なものは高付加価値区分に転換したことで繁栄し、機械類、医薬品、ハイテクなどの専門分野は重要な国家産業に成長しました。

### ファッション・デザインから機械類と 医薬品の輸出へ

(2009-2017、輸出品の価格、10億ユーロ単位)



ソース: ISTATのデータより、イタリア経済発展省発表

持続可能な生産システム

イタリアは欧州においてもっとも環境効率の良い国の一つで、100万ユーロの消費に対し、ドイツが143トン、イギリスが113トンの二酸化炭素を排出している中でイタリアは101トンとなっています。

ソース: Fondazione Symbola, Unioncamere e Fondazione Edison on Greenitaly report 2017 on data 2014

イタリアは産業機械(梱包、食品、繊維など)において、ドイツに次ぐ世界第二位の競争力を持つ国です(UNCTAD/WTO発表のTrade Performance index 参照)。

イタリアの化学メーカーは年間売上高が520億ユーロを超えており、これは欧州で第三位です。

工業地域における欧州の製造業貿易収支に関しては、イタリアはドイツに次いで第二位に位置しています。ハイテク工業地域の貿易収支トップ20のうち、8つの地域がイタリアにあります。



医薬品生産欧州第一位



欧州全製造業第二位





# 戦略的 ゲートウェイ

地中海の中心に位置するイタリアは、40の重要港湾と42の空港をもって、ヨーロッパ・北アフリカ・中東を結ぶ戦略的・ゲートウェイとしての機能を担う。

膨大な数の港湾、空港、そして物流合流地点があることと、国と国とをつなぐ航空・海上の発着地が十二分に揃っていることで、イタリアは国際市場への高い自由度を発揮しています。



九つの欧州主要運輸ネットワーク (TEN-T) のうち、四つがイタリアを横断。



イタリアの鉄道網のうち、約60%が戦略的ヨーロッパ回廊 (TEN-T CNC) の一部。



14の港湾が欧州内 (主要ネットワーク) において重点的合流地点としてリストアップされており、海上の交通流を制限するインフラ能力上の制約がない (特に、積み替えコンテナ輸送)。





10の空港が欧州内 (主要ネットワーク) において重点的ハブ空港としてリストアップ。





イタリアの交通機関は、イタリアの格別に魅力的な観光地を訪れる観光客を含め、年間10億人の旅客に対応しています。

旅客移動

 **6700万人** (2016年) **1st**  
イタリアはヨーロッパで一番、人の乗船・下船が多い。

 **8.49億人** (2016年)  
もの乗客が、国内の鉄道網で移動。

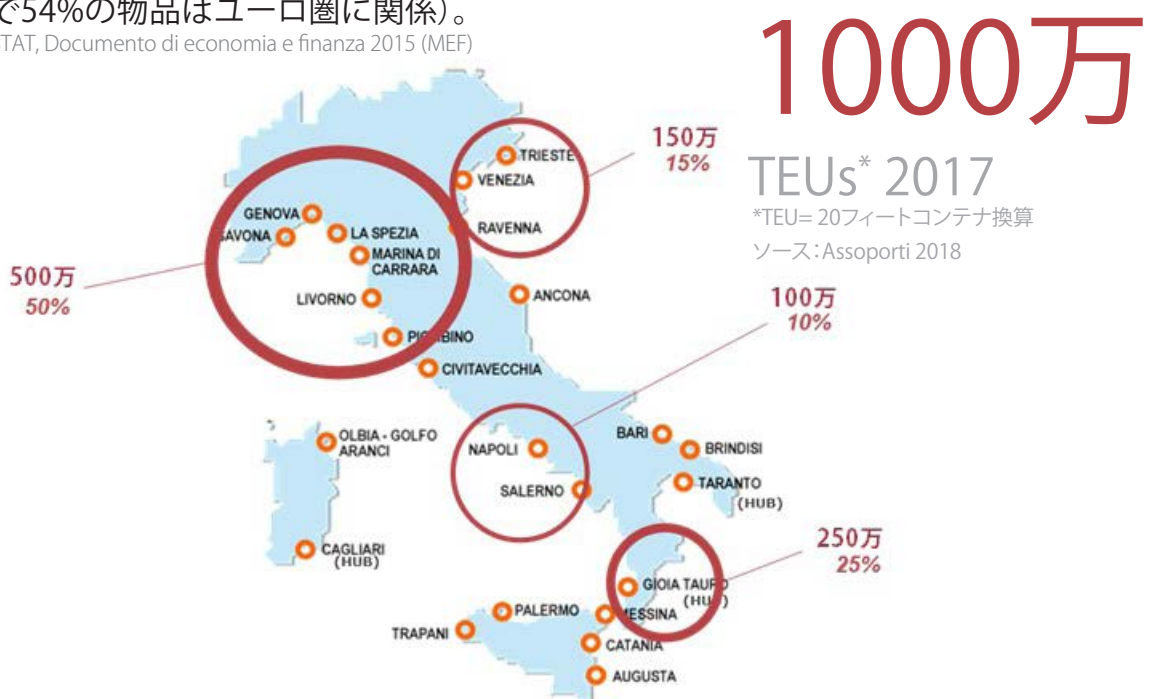
 **29%** (2016年) **1st**  
欧州のクルーズ客はイタリアの港湾で最も多く乗船・下船し、イタリアはEUのクルーズ市場を圧倒。

 **1.34億人** (2016年)  
もの乗客が、イタリアの空港を通じて移動。

ソース: Eurostat, ISTAT, Documento di economia e finanza 2017 (MEF), MIT

貨物物流

**4.32億トン**  
もの物品が、外国と取引される(うち、  
価格ベースで54%の物品はユーロ圏に関係)。  
ソース: Eurostat, ISTAT, Documento di economia e finanza 2015 (MEF)



02

# なぜ 今なのか

魅力にあふれる投資インセンティブ

増大する海外からの投資



# 魅力にあふれる 投資 インセンティブ

様々な改革を経て、イタリアは、FDIの魅力の向上、研究開発の奨励、そして先鋭的な新企業の成長の促進を目的とした、数多くの金銭的インセンティブを導入。

## ハイパー償却とスーパー償却



ハイパー償却とは新たに購入した、または新たにリース契約した、インダストリー4.0に関連する有形の資産、装置、技術への投資を250%超過償却するものです。

スーパー償却とは新たに購入した、または新たにリース契約した資本財を130%超過償却するものです。

ハイパー償却を利用する会社は、無形資産(ソフトウェアやITシステム)への投資を140%超過償却する恩恵を受けることができます。

## 優遇税制

### 雇用

労働者を正社員として雇用する場合、使用者の人件費が控除され、その労働者が女性であればさらに控除されます。若い労働者(2018年中は35歳未満、2019年以降は30歳未満)を雇用する使用者に、社会保障負担の50%の減税(イタリア南部では100%)に相当する報酬が支払われます。

### エネルギー効率

既存の建築物の補修工事に投資する納税者に対し、最大75%の控除。

### パテントボックス税制

ライセンス供与または無形財産(特許、ノウハウ、商標)の直接使用に伴う所得金額から、IRES(法人税)およびIRAP(地方法人税)の最大50%を控除する制度です。

### 会社の資本増強

自己資本が増加した会社には、税の優遇措置が与えられます。

### 研究開発

2017-2020年の期間に発生した研究開発費の、2012-2014年の間の研究開発費の平均と比較した増加分について最大2000万ユーロ/年の固定額を限度として、50%の税額控除が受けられます(優秀な人材、研究機材や設備、ノウハウ、特許、大学活動、公的研究や、イノベーションな事業の立ち上げなど。)



## プロジェクト投資インセンティブ

### 新産業プロジェクト

開発契約プログラムは、製造、観光、そして環境保護に関連する2000万ユーロ以上の新規、拡張プロジェクト(食品加工においては750万ユーロ以上)の投資をサポートします。このプログラムは複数の機能を持つプロジェクト(投資+研究開発)によって構成され、また複数の当事者間と共同で実施される場合もあります。投資の種類と会社の規模によって援助の程度が変わります。(南部イタリアへの投資は、会社規模に関わらずより高額のインセンティブを得ることができます)。インセンティブは、適格費用総額の75%までの助成金およびソフトローンで構成されています。最終的な金額はInvitalia(管理機関であるイタリア投資誘致・事業開発公社)による交渉プロセスの結果によって決まります。

外国企業から提示されたプロジェクトは、最低500万ユーロの投資をすることで、「迅速」手続(評価時間の短縮や、特定の経済的・企業的手段に関して順番待ちを飛ばす)に入ることができます。

詳細は下のURLをご参照ください

[www.invitalia.it](http://www.invitalia.it)

## スタートアップ

イタリアは、高い技術的内容を持つイノベーター的な新興企業間のエコシステムを支援する立法に取り組んでいます。

イノベーター的な新興企業には以下の特性が求められます。

- ・新規事業または事業立ち上げから五年未満
- ・イタリアに本社または生産拠点がある
- ・年間売上高500万ユーロ未満
- ・規制市場に上場していない
- ・配当を行わない
- ・ある会社が合併、分社化または譲渡を行った結果発生した企業ではない
- ・技術革新の内容に明確な特徴がある

また、以下の基準を一つ以上満たしている必要があります。

- ・年間コストの15%が研究開発費に回されている
- ・全労働力の1/3がPh.D.か研究者である
- ・特許の所有者、寄託者、またはライセンス実施権者

## 資本財のインセンティブ

新しい機械類、工場、または設備を購入したい中小企業は、その投資に関連する銀行ローンの利子を部分的にカバーする政府補助金が利用可能です。中小企業向けの公的貸出保証制度も利用することができます。

### スタートアップ企業が受けられるインセンティブ

- ・Smart&Start Italia (Invitaliaが提供する金銭インセンティブ)
- ・Italia Startup Visa
- ・費用のカットや手続きの簡略化
- ・柔軟な企業経営
- ・組織体系的な損失が簡単にわかる
- ・ダミー企業に関する規制の免除
- ・課税オプションと、「株式のための労働」制度
- ・優秀なスタッフの税額控除
- ・公的保証基金への迅速なアクセス

# 増大する 海外からの投資

2014年、イタリアは新規の対内海外直接投資の成長率がヨーロッパ諸国の中で最も高い+31% ( f Di Report, 2015参照) で、この数字は現在進行中の経済的・投資的な活動への信頼感を反映している。

## イタリアのFDI信頼感指数 (2016-2018年、FDI指数の順位)

ソース: A.T.Kearney



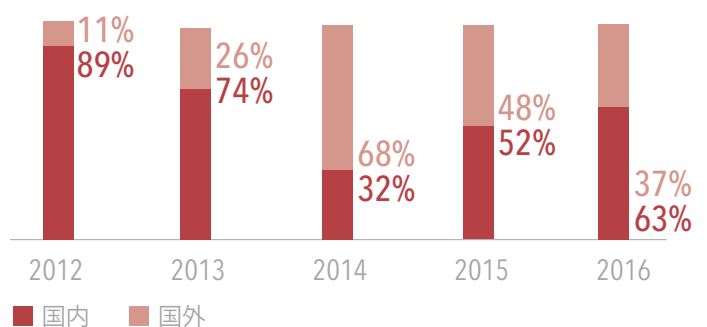
## 勢いを増す投資動向

2016年、イタリアはFDIの約50%の増額を達成し、FDIの総額が290億ドルに到達したことで世界ランキングが5つ上昇、13位の座につくことができました。

また、市場から調達された資本の2/3 (およそ9.22億ユーロ) は海外の投資家によって行われたもので、残りは国内投資家が出資したものです。

## 調達資本源の割合

(2012-2016年、調達資本の割合を%表示)



ソース: AIFI

## FDIガバナンスへの 新たなアプローチ

### 高レベルなガバナンス

FDIのガバナンスと魅力を支えるため、イタリアの首相官邸の監督の下、経済発展省が議長を務める高等省庁間委員会が設置されました。また、この委員会はFDI戦略を定義し、事業改革を提案し、特に重要なプロジェクトをサポートします。

### 一本化された窓口

ITA(イタリア貿易促進機構)とInvitalia間の合意により、ITAは海外投資家の方々の窓口となり、投資サイクル全体をワンストップで対応いたします。具体的には、投資家向け情報の収集、入札の準備や、インセンティブのアフターケアと行政との連絡の管理など多岐に渡ります。統合CRMシステムにより地方のFDI担当組織と協力し、現地の投資家をサポートすることが可能となっています。

### 世界中にネットワークを持つ事務所

世界中の主な金融の中心地に連絡事務所が配置されており、イタリアへの投資の機会をその地域のビジネス界に広げる活動をしています。

私たちは世界各国において個別企業にあわせたサービスを提供するため、67か国・81の支部にて皆様をお待ちしています。

## FDI事務所

ITAはFDI(投資)デスクを通じて、イタリアでの海外企業の設立と振興を進めます。

- ・ビジネスチャンスのご案内
- ・海外投資家の事業の設立・拡張を支援
- ・投資のライフサイクル全体をサポート
- ・現行の投資戦略に関しハイレベルなアドバイスを提供



世界を相手にする投資家の方々へ、どの投資プロセスの段階においても効果的なサポートを約束します。

## 海外投資家への サポート



### 投資前情報の提供

- ・市場やビジネスの環境
- ・投資分野の対象
- ・税・法制度・労働市場の特徴
- ・補助金・助成金の枠組みや、金融経済の調査
- ・イタリアにおける競争上の強み



### 事業のセッティング

- ・立地調査・現地訪問
- ・認可手続き
- ・海外投資家の許可証の手続き
- ・人材の調査
- ・行政との連絡事務所



### アフターケア

- ・海外とのネットワークをつなぎます
- ・リクルート活動、技術習得や研修のサポートを行います
- ・文化の違いの仲裁

03

The image features the number '03' in a large, bold, sans-serif font. The digits are white with a thin grey outline. The background of the digits is a photograph of an industrial or construction site. The '0' shows a yellow forklift and a blue tarp. The '3' shows a blue tarp and a person in a blue shirt. The overall scene is outdoors with a clear sky.



# 最高の チャンス

イノベーションを支える能力

膨大な工業地域

交通インフラとデジタルインフラ

公共インフラ

# イノベーション を支える能力

イノベーションと研究に情熱を傾ける  
国家イタリアは、年間の研究開発費に  
250億ユーロ以上投入

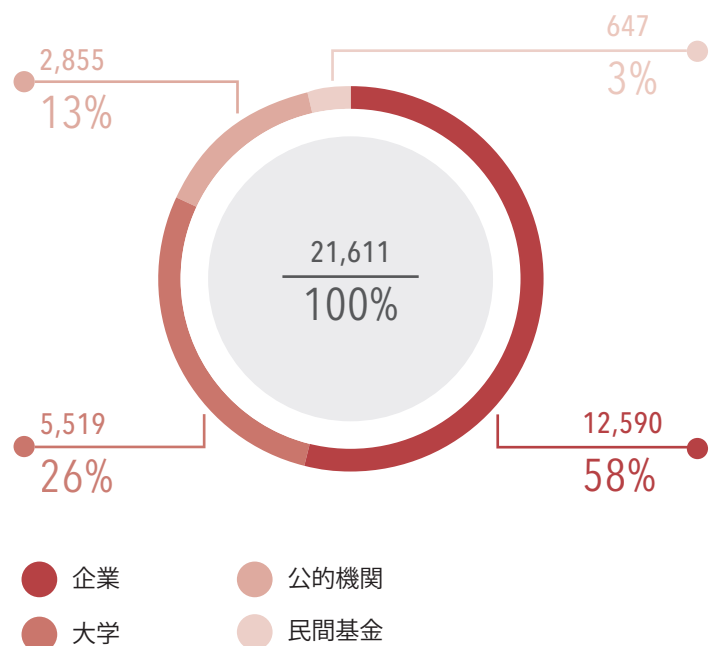
イタリアは世界最高レベルの研究開発環境を提供します。イタリアの年間200億ユーロを超える研究開発費は世界の中でも最高水準にあるもので、絶対値としては、イタリアは研究開発の投資額がOECD加盟国内で10位、欧州内で4位となっています。

世界で最も生産性の高い  
イタリアの研究者

International Comparative Performance of the UK Research Base (英国研究基盤実績国際比較)によると、イタリアの研究者は、研究者一人あたりの出版論文数と引用文献数と研究開発費の指数が世界トップランクとなっています。

## 研究開発費

(2016 分野ごとの研究開発費、100万ユーロ単位、%)



ソース: Eurostat

イタリアの高度に発展した経済ネットワークはイノベーションに最適です。数々のイノベーションを育てる環境やサイエンスパーク・テクノパークが大学、地方開発機関、または民間企業としての役割を果たしているインキュベーターとつながっています。インキュベーターの中には最近株式市場に上場したものもあります。

イタリアのイノベーション・システムは、何千ものスピノフ企業や新興企業による知識と技術の市場への移動を実現してきました。また、イノベーティブな企業は幅広いインセンティブによって支えられています。

製造業はイノベーションを含み、イタリア経済の原動力となっています。生産プロセスにおけるデジタル技術の利用率から、製造業を営む企業が技術パラダイムを目指しているという顕著な傾向があることが明らかになりました。

「デジタル・ルネサンス」のコンセプトは製造業と多くの企業によって認知されており、そのうち約40%が3Dプリンタを活用し、25%がロボット技術を採用しています。

### 成長を続ける世界的ハイテク・クラスター

#### 航空宇宙

ヨーロッパ **4位**

**150億** ユーロの収入

**27億** ユーロの投資

**52,000** 人

#### バイオテック

**571** のバイオテック企業

**115億** ユーロの収入

**15億** ユーロの投資

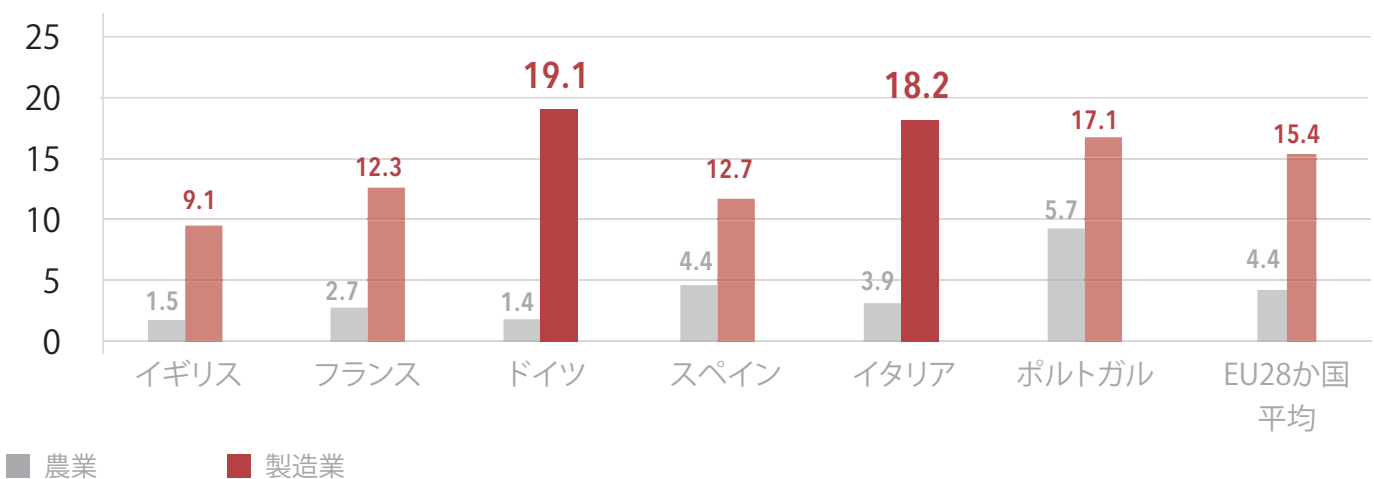
**12,000** 人

製造業に携わる従業員の18.2%が技術集約型の活動を行いました（これは19.1%の数字を出したドイツに次いで二番目）。

イタリアは8,307件の特許を登録しており、これは世界で11番目の数になります。欧州内ではドイツ、イギリス、フランスに次いで4番目です。

### ハイテク集約型の活動：欧州の製造業

(2017, 技術集約型の活動を行う従業員の割合を%で表示)



ソース: Science, Technology and Innovation Database, Eurostat



# 膨大な 工業地域

140以上の工業地域には100万を超える数の会社があり、これはイタリアの製造システム全体の1/3近くを占める。

イタリアの141の工業地域は、中小企業を相互依存かつ協調的な生産システムに集約したものです。この工業地域はイタリア独特の産業力の一つです。自発的に集まった企業が専門性と特長を伸ばすために時には競争し、時には協力し合います。これらの地域は、イタリアの製造業の高性能化とイノベーションに貢献するだけでなく、約500万人の従業員を雇用しています。

工業地域はイタリアの生産システムの中でも高い価値を持つ存在です。

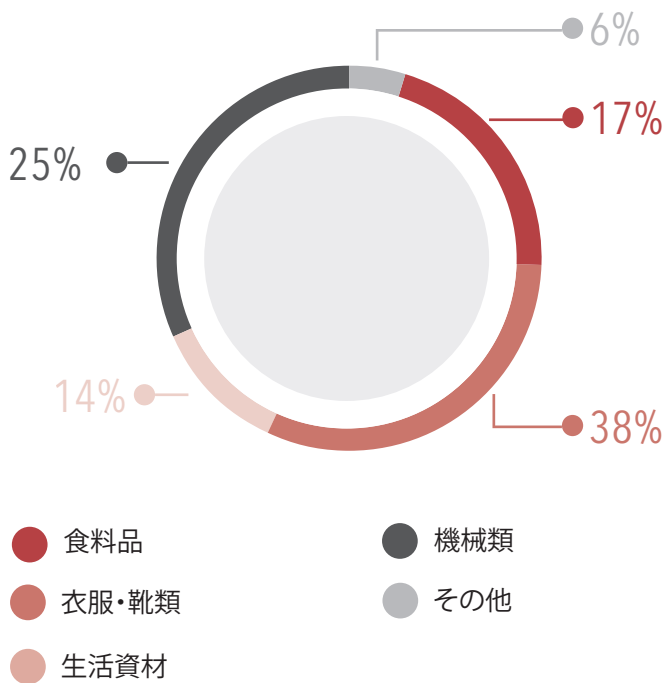
大部分の工業地域は、機械類から衣類および履物類まで、世界的に有名なメイド・イン・イタリアー製品およびブランドのバックボーンであり、生産拠点でもあります。



イタリアの工業地域は非常に活発で、輸出の伸び率はイタリアの製造業全体の輸出伸び率を上回っています。



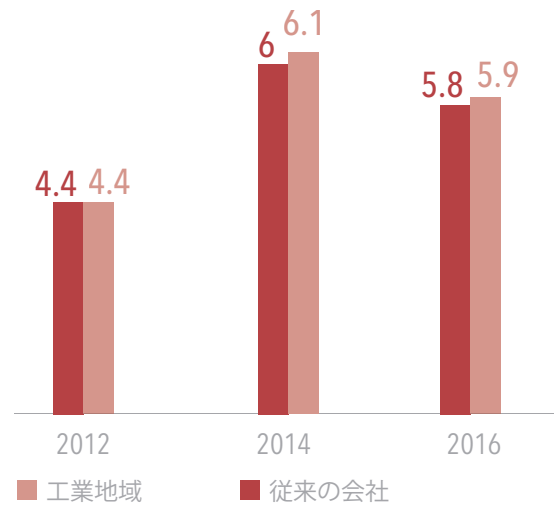
工業地域の分野別内訳  
(2016年、%表示)



ソース: Banca Intesa San Paolo

工場地域の企業は、従来の企業と比較して優れたパフォーマンスを誇っています。2016年のデータでは、工業地域の企業は従来の企業と比較して高いROIを記録しました(工業地域は5.9%、従来の企業は5.8%)。

実績(平均ROI)  
(2011-2016年、ROI、%表示)



ソース: Banca Intesa San Paolo



# インフラストラクチャー： 交通

毎年4.32億トンの物品と10億人の人々がイタリアの内外や周辺を移動。

## イタリアの交通システムの主な特長

### 高速化し続ける交通システム

- 高速鉄道
- バリアフリー化された高速道路
- 都市間の合流点と空港をつなぐ都市高速鉄道

### 戦略的立地と開かれた国際間取引

- 鉄道のヨーロッパとの相互運用性
- ヨーロッパ主要ネットワーク回廊にて適切な立地を確保
- 多数の物流拠点と国際取引

## 地中海の中心地

世界の海上交通の **20%**

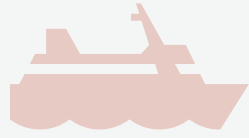
**30%** が燃料を用いる交通

**25%** がコンテナラインサービス

ソース: Confitarma 2018

画像: The European Ten-T Network

## 海



イタリアの海上インフラには8,122kmの長さを誇る沿岸に位置する40以上の主要貿易港があり、うち21拠点は国際線サービスを提供しています(14か所は欧州戦略ネットワークの一部です)。

これにより、イタリアは地中海の貿易フローのゲートウェイとしての役割を果たすサービスと、国際コンテナ輸送の中継としての機能の両方を提供することができます。

イタリアはヨーロッパ屈指のRO-RO船の交通量を誇り、157社の船舶所有企業と2,700隻の船があります。

1<sup>st</sup>

ヨーロッパ内のクルーズ客の数

370万人のクルーズ客がイタリアで乗降

ヨーロッパ内の母港の数は1位で、市場の29%を占めます。

1<sup>st</sup>

ヨーロッパ内の総乗客数

3<sup>rd</sup>

ヨーロッパ内で扱うトン数

## 航空



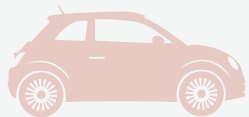
イタリアは2018年に1.7億人の旅客が訪れると予想されています。これはヨーロッパでは4位の数字で、世界の金融危機以前に記録された数まで旅客数の水準を回復させたヨーロッパの主要市場の数少ない国の1つです。

合計で42の空港があり、うち10の空港がヨーロッパ主要ネットワークに組み込まれています。イタリアの空港ネットワークは、127万人の居住者と6,400平方キロメートルにつき一つの空港を提供しています。

2030年には、航空交通量がほぼ倍の3億人になると予想されています。

民間向けハブ空港の強化のために、90億ユーロが投入されています。

## 道路



6,600kmの高速道路と21,500kmに渡る国道は、ヨーロッパの道路交通網の10%を占めます。イタリアの高速道路の多さはヨーロッパで3位(1000平方キロメートルにつき22.1kmの高速道路)です。これはヨーロッパの平均以上で、フランスやイギリス以上の数字です。

道路交通量は車の走行距離にして587億kmに相当するという記録が出ました。

## 鉄道



毎年8.52億人の乗客(ヨーロッパ4位)と約9200万トンの物品(ヨーロッパ5位)がイタリアの鉄道システムで移動します(2014年のデータ)。

イタリアの鉄道システムは、ヨーロッパとの相互運用性基準と調和した、動力が電化された鉄道と設備システムの割合が、欧州平均よりも優れ、先進的で、網羅的に張り巡らされています。

# インフラストラクチャー： デジタル

イタリアは他のヨーロッパ諸国に先駆けて最先端のモバイルネットワーク技術を採用

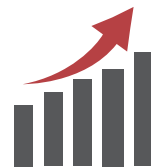
イタリアは、5G実験を開始した最初のヨーロッパの国です。2018年までに各加盟国が少なくとも1つの都市で5Gの試験運用を開始する、という欧州活動計画に先駆けて取り組みました。



この最初のイタリアの都市は早ければ2019年に5G通信が行きわたることになり、2022年までにはイタリア全土に普及することになります。



この数年で、イタリアのすべての電話サービス提供者はLTEへの投資を再開しました。イタリアの三大通信キャリアは、人口あたりのLTE普及率を54%から90%にまで向上させました。



ウルトラブロードバンドに関する国家戦略の目的は、2020年までに、イタリアの人口の少なくとも85%に100 Mbps以上の超高速ネットワークが行きわたるようにすること、イタリアの全人口に少なくとも30 Mbpsの通信速度を保証することです。さらに、全ての公共のオフィスやビル、工業中心地、経済的重要度が強い地域、人口が集中している地域、主要な観光地や物流拠点に100 Mbps以上のネットワークを保証するという課題に取り組んでいます。



## 高まる100%デジタル化への気運

イタリアは政府サービスのデジタル化と透明性の向上のために他のヨーロッパ諸国と連携しています。デジタルアジェンダの更なる推進とHorizon 2020の目標を達成するために、イタリアは2014年から2020年にかけて、インフラ、デジタルサービスと、国民のデジタル教育およびデジタル利用率のさらなる向上を目的として45億ユーロを投入しています。

ヨーロッパで最もウルトラブロードバンドが発展している都市の一つ、ミラノ。

イタリアの固定ブロードバンド普及率はヨーロッパの平均以上で(イタリア99%、欧州平均97%)、高速ブロードバンドであるNGAの普及率も平均を超えています(イタリア87%、欧州平均80%)。

\*NGA = Next Generation Access

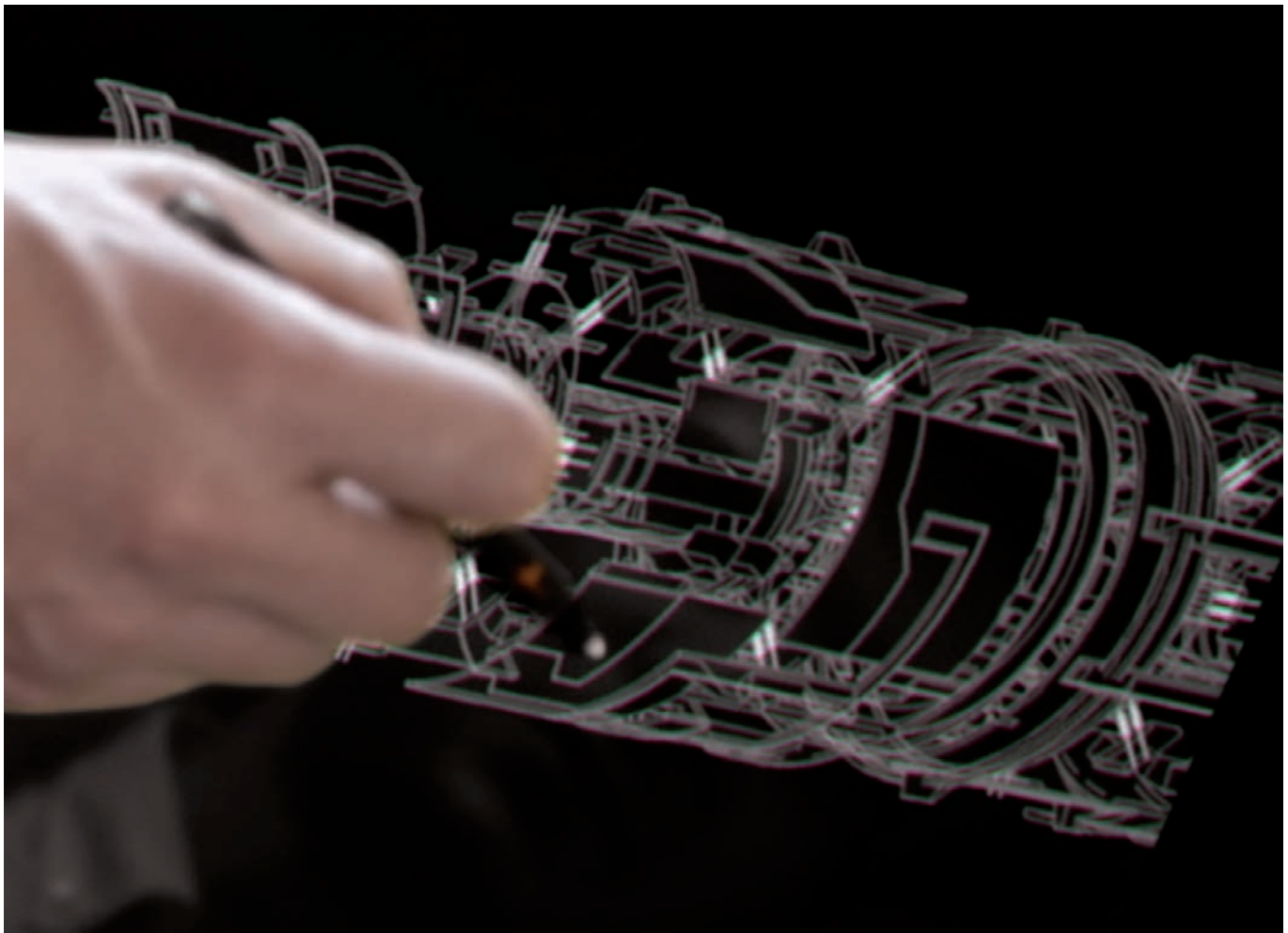
### 高速ブロードバンド(NGA)普及率 (2018年)



### 固定ブロードバンド普及率 (2018年)



ソース: DESI Report 2018



# 公共インフラ

イタリアのエネルギー市場は巨大で、自由で、再生可能エネルギーを重視。

イタリアのエネルギー市場における発電、取引および小売活動は完全に自由化されていますが、送電および配電サービスは官民連携、いわゆるコンセッション方式の対象となっています。

セクター投資とM&Aを奨励するインセンティブにより、2013年の投資額は2012年の42億ユーロから57億ユーロ(+6.8%)に伸び、国内の総投資額の約1.7%を占めました。

ソース: Top Utility Analysis report

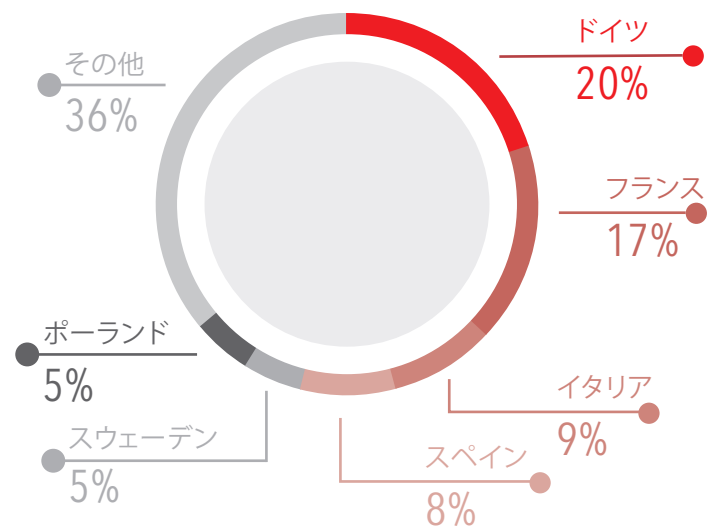
## 電力の生産

イタリアはユーロ圏の主要な電力生産国の一つです。現在国内で生産されている電力量は内需の87%、3,700万人分の顧客の需要をまかなっています。

イタリアはドイツとフランスに次ぐユーロ圏の主要な電力生産国

## EUの総発電電力量

(2017年、EU市場における国別の電力量、%表示)



ソース: Elaborations Rie-Ricerche Industriali ed Energetiche on data BP Statistical Review 2018

- 2nd 欧州内の太陽電力発電量
- 2nd G7参加国間の再生可能エネルギー発電量
- 3rd ユーロ圏の電力発電量
- 3rd 地熱、バイオエネルギーやその他の再生可能エネルギーの発電量
- 4th 欧州内のエネルギー需要に備えている国
- 4th 欧州内の水力発電量
- 5th 欧州内の水資源を確保している国

## 水

イタリアは水資源の備えにおいて欧州内で5位、世界では16位に位置しています。

1人当たりの利用可能水量は297リットル/日に相当します。

## 天然ガス

年間の天然ガス消費量は約619億立法メートルで、これはヨーロッパの天然ガス需要の15%を占めます。

## 再生可能資源

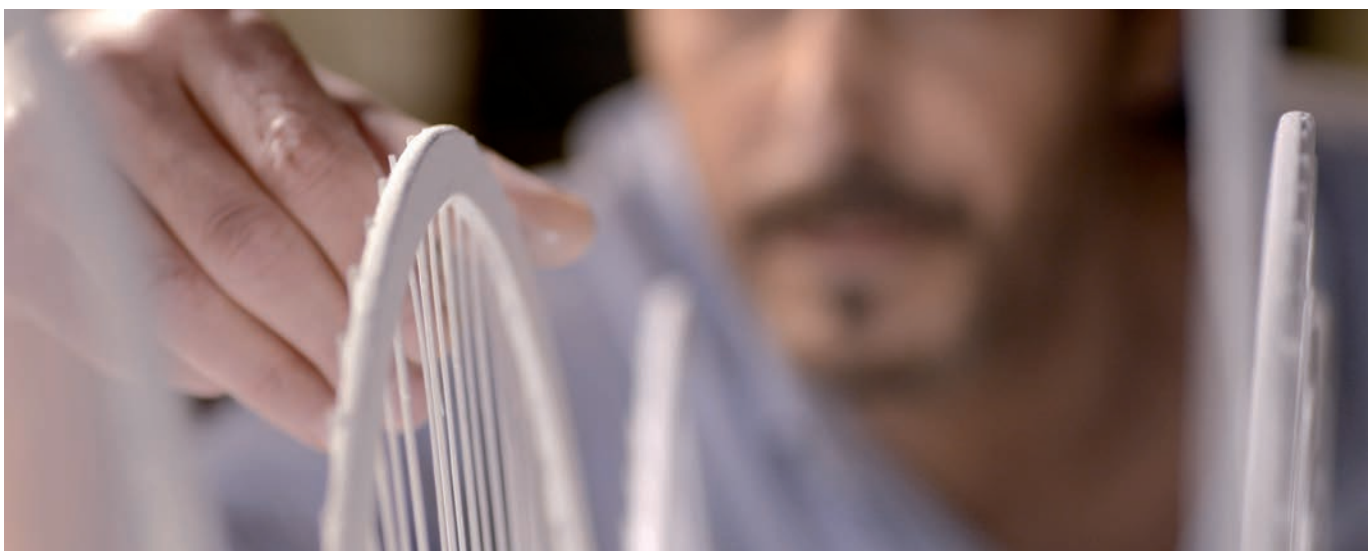
イタリアの正味エネルギー生産の43%は再生可能エネルギーによるもので、天然ガスと合わせると全国生産の76%を占めます。

G7参加国の中では、イタリアはカナダに次いで再生可能エネルギー発電量が2位です。

国家エネルギー戦略は重要な投資の実現を拡大するためのもので、2030年に向けた投資額を追加し、合計で1,750億ユーロに増額するという見通しをつけました。具体的には以下の内容です。

- ・ガス・電気のネットワークとインフラに300億ユーロ
- ・再生可能資源に350億ユーロ
- ・省エネルギーに1100億ユーロ

このように、投資の80%以上はエネルギーシステムの持続可能性を高めることを目的としています。これらは雇用への影響が大きく、技術革新の意義が高い分野です。







*Ministero dello Sviluppo Economico*



INVEST  
IN ITALY



Foreign Direct Investment Department  
via Liszt, 21 00144 Roma  
t +39 06 5992 1  
f +39 06 8928 0313  
www.ice.it  
fdi@ice.it  
attrazione.investimenti@ice.it

INVEST  
IN ITALY investinitaly.com



investinitalyrealstate.com



Follow us on Twitter! @ITAtradeagency  
Follow us on Twitter! @ITAinvestItaly



ITA - Italian Trade Agency  
ITA - Invest in Italy

Figures at May 2018

Published July 2018

The contents of this guide are the exclusive property of the ITA- Italian Trade Agency

© copyright - ITALIAN TRADE AGENCY 